富山の船と港

会員　福冨　廉

“船でしか行けない秘境温泉”というキャッチフレーズが以前から気になっていた。ちょうど富山の「海王丸」には行ったことが無かったので見に行きたいと思っていたところへ新聞のツアー広告で先のキャッチフレーズが目に入り、ツアー利用では無いが行ってみることにした。併せて、富山周辺の船と港に接してきたのでレポートしたい。

ちなみに、富山の港と言えば「伏木富山港」（国際拠点港湾）を指すことになり、ここは伏木地区（高岡市）、新湊地区【富山新港】（射水市、高岡市）、富山地区（富山市）の 3 地区からなる港湾で、3 か所とも北前船の港としても名高いが、今回は、観光要素が大きい新湊地区、富山地区の 2 つを中心に訪れた。

１．富山港（富山地区）

富山港は江戸時代から神通川の河口港として栄えた港であり、戦前までは東岩瀬港と呼ばれていたそうだ。北前船の時代は北海道と大阪の中間にあって、加賀百万石の米の一部を扱う等して相当栄えたようだ。今はこの古い街並みや北前船主の豪邸等を中心とした観光拠点として有名で、LRT（富山地方鉄道富山港線）が走っていて交通も便利である。調べてみると、岩瀬へ行くには、富山駅から至近距離の環水公園から観光船があることがわかり、しかも途中に閘門があって上がり下がりがあるということで乗ってみることにした。それが富岩水上ラインで、神通川の治水対策として 1900 年代初めに造られた富岩運河を通航する船で、環水公園から岩瀬浜まで行き来する便と、途中の中島閘門（重要文化財）まで行って閘門施設を見学して戻ってくる遊覧船とがあった。前者は施設見学は無いが船に乗ったまま 2.5m 程度の上がり下がりを体験でき、乗船料金に LRT の片道切符が含まれている。運河沿いは桜の名所だそうだ。

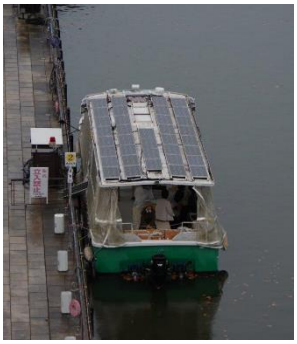
「sora（そら）」（定員 55 名）2009 年製のソーラー船

「もみじ」（定員 11 名）アメリカ製の電気ボート

「fugan（ふがん）」（定員 55 名））2015 年製のアルミソーラー船

「kansui（かんすい）」（定員 55 名）2019 年製のソーラー船

環水公園と遊覧船乗り場（左）



「sora（そら）」

中島閘門操作室

中島閘門に入る直前

排水が終わりゲートが開いた（高さ 2.5m 程変化）

昔の常夜灯を模した岩瀬にある富山港展望台（高さ約 25m）

２つのドックが残る新日本海重工業（造船は無い）展望台から

２．富山新港（新湊地区）

船に興味がある方なら、保存帆船「海王丸」と富山県営渡船がある場所として既にご存知であろう場所だ。平成 2 年からこの地に係留され一般公開されている「海王丸」については改めて説明する必要も無いだろう。傍の日本海交流センターでは港の説明や帆船模型展が行われていた。

さて、新港と呼ばれるくらいだから当然新しいはずだが、ここは元は放生津潟（ほうじょうづがた）と呼ばれた潟湖で、海岸沿いには鉄道も走っていたが（富山地方鉄道富山港線と高岡からの万葉線はその一部）、1960 年代に新港建設が始まり、鉄道と道路は廃止になってカーフェリーが就航、その後 1990 年代になって港口を跨ぐ新湊大橋ができて人と 2 輪車のみの現在の無料の富山県営渡船へと変遷してきたそうだ。新港大橋には歩道があって 30 分もかければ渡ることもできるが、渡船の運航が無い夜間にはデマンドタクシーの準備がある等、なかなか手厚い。

港は整備されて、大型のチップ船やばら積み船、中型のコンテナ船等が出入りをしていたが、付近の行政区域はほとんどが射水市ながら一部に高岡市が入り組んでいて複雑な気がした。港の西側の射水ベイエリアは日本のベニスとも称しているノスタルジックな水辺の観光地で、私もか

つて「人生の約束」という映画を見て、一度来たかった場所である。中心となる内川沿いにはずらりと漁船が繋がれており、散策すると気持ちがいい。このベイエリアを一周する遊覧船も有り、海王丸パークと内川沿いの”川の駅”で乗降できる。通常は、この内川と港の外の外海を一周するのだが、行った日は強風で内川側の内陸側だけを往復していた。

射水ベイエリア・内川沿い

富山県営渡船「こしのかた」　（左）堀岡発着場にて　（右）新湊大橋上から

夜の越の潟発着場に泊まる「こしのかた」

お休み中の僚船「海竜」内川河口にて

内川の観光船「万葉丸」　通常はベイエリアを大きく一周する

初代「海王丸」と能登半島、手前に「万葉丸」も

新湊大橋をくぐるチップ船「GREEN PEGASUS」

３．庄川温泉郷・大牧温泉

“船でしか行けない秘境温泉（秘湯）”あるいは“船でしか行けない秘境の一軒宿”として知られるのが、ここにある「大牧温泉観光旅館」である。ここに泊まるためには、北陸新幹線新高岡駅から路線バスに乗車して約 1 時間半の小牧港（庄川を堰き止めた小牧ダムの脇にある）から庄川峡遊覧船に乗って約 30 分遡っていかなくてはならない。

小牧港までの間には、チューリップで有名な砺波[となみ]市と神社仏閣や欄間の木彫り彫刻で有名な井波（南砺[なんと]市）があって、時間があれば、別の観光もたっぷりできる場所である。

庄川峡遊覧船は庄川峡を遊覧する船で、途中で戻ってくる短時間遊覧の“長崎橋周遊コース（25 分、大人 1,200 円）”とその先の大牧港（旅館）まで行く“大牧温泉コース（片道 30 分、大人往復 2,800 円）”があり、宿泊客は当然後者で行くわけだが、宿泊客以外も乗船したまま往復することも可能であった。庄川峡はミニフィヨルドと言った感があり、切り立った両岸の景色を見ながら左右にクネクネと進んで行った。両岸の上の方に道路があり、立派な橋も 2 つ、また水力発電所等もあったが、人家のようなものはほとんど見られず、もちろん、くだんの旅館には林道のようなものが通じていたが、一般車両は入ることができず、旅館の周囲もクマが出たとのことで、散歩もできなかったくらいだった。

ちなみに、帰路の船上からは至近距離で岸にいるクマを目撃するこができてラッキーだった。

庄川峡遊覧船「やまぶき」（定員 120 名）

庄川峡遊覧船「クルーズ庄川」（定員 94 名）

庄川峡遊覧船「はやぶさ丸」（定員 31 名）

庄川峡遊覧船　所有 3 隻勢揃い

小牧港　右側には船を引き揚げるスロープと赤い台車

小牧港　正面は小牧ダム

航路の景色

大牧温泉観光旅館　港の奥、着岸前に建物の前で U ターン

大牧港　旅館の皆さんの見送り